

クレアでは、総務省、外務省、文部科学省と連携し、JETプログラムを推進しています。



交流を夢見て

鹿児島県与論町教育委員会外国語指導助手 **Mary Margaret Gilliam** メアリーマーガレット・ギリアム

2009年の9月のこと、わたしにとっての初 めての授業をするために教室へ入った時のことを 今でも悪夢のように鮮明に覚えています。あの頃 は子どもたちとどのように接して良いか分からず に、子どもたちのことを怖いと感じていました。 しかしどんな困難でも受け入れようと心の準備は できていました。だから自分の苦手なことにも向 き合うように決心しました。「教えること」の唯 一の経験としては、ダンスを8年間教えていまし た。当たり前ですが、ダンスを教えることと英語 を教えることは大きな違いがあります。でも山重 小学校の6年生の幼い子どもたちのかわいい笑顔 を初めて見た時、これからどんなことでも向き合 うことができるとすぐに思いました。ところが黒 板に書かれていた文字は "I can …" だけでした。 教科書にどのような効果があるのか、そもそも教 科書が存在しているのか、全く分かりませんでし た。だから、一番自信のあるダンスを取り入れる ことにしました。その方法のひとつとして全クラ スで子どもにジェスチャーを使わせることにしま した。何ができるのか、何ができないのかを動作 によって説明させるようにしました。

わたしのJETプログラムで教えた経験はあの頃 からすると成長していると思います。鹿児島本土 で2年間教授した後に、"与論島"と呼ばれる鹿 児島県最南端の島に異動することになりました。 その年の5月にTEFL (Teaching English as a Foreign Language: 外国語としての英語教 授法) の認定を受けていましたので、与論は今ま

でにどんなことを学んできたのかを試すことがで きる最も適した場所でした。子どもたちが英語を いくら理解していたとしても、もっと、もっとコ ミュニケーションが必要であると思いました。だ から、子どもたちにとって英語を受け入れるため の新しい方法を考え始めました。

与論中学校ではJTE (Japanese Teacher of English:日本人の英語教師)と協力して、3年 生全員と交換日記をすることにしました。毎週

末、子ども全員が わたしあてに日記 とさまざまな質問 を書いています。 やり始めた頃は子 どもたちにとって は大変なことでし



中学生と一緒

たが、今では全員提出することができます。そこ から多くの日本の文化や子どもたちの日常の生活 を学ぶことができます。子どもたちは何が好きで、 何が嫌いなのか、またはどんな部活動に入ってい るのかを知ることもできます。

ある日、AJET (Association of JET: JET 参加者の会) のコミュニケーションゲームのホー ムページを見ていると、コミュニケーションカー ドというアイデアを見つけました。わたしは子ど もたちがわたしあての交換日記に書いていること について話をするのにとても良い方法だと思いま した。早速わたしとJTEはコミュニケーション カードを始めることにしました。わたしは授業



誕生日

外の時間で子どもた ちと話をすることに しました。学校外で 会った時などにも話 をしました。ルール としては、子どもた ちがわたしに質問を

したり、わたしの質問に答えることができたりし たなら、コミュニケーションカードを 1 枚もらう ことができます。カードを集計して、1番多くの カードを集めることができた学級は、アメリカの 物をプレゼントとしてもらうことができます。子 どもたちはカードを集めることが大好きで、とき どき廊下で"HFILO MARY MARGARET!"と 大きな声で驚かされることもあります。今では交 換日記によってわたしたちと子どもたちの間には たくさんの話題を共有することができています。

3つの小学校では、素晴らしいスタートを切る ことができました。子どもたちは授業で会話する ことでとても盛り上がりました。ある校長先生と 話した時、学校はもっと文化交流をしてほしいと わかりました。だから「子どもたちにアメリカ人 と話し、質問する事はできるのでしょうかしと考 えました。ネットモラルや個人情報の問題などを 考慮しながら、小学校5・6年生の授業の中で、 Skypeを使ってビデオチャットを取り入れまし た。子どもたちが授業終了後、ペアになって習っ た文法事項を使いながら質問を考えました。例え ば「どんなフルーツが好きですか」、「レディー・ ガガが好きですか |、「20マイル泳げますか |、「お 金欲しいですか」などの質問がでてきました。そ れからビデオチャットで、アメリカ人に自分自身



エイサー

を紹介し、質問してみま した。最近子どもたちに どのような授業が一番好 きなのかについて調査し ました。ビデオチャット の授業が 1 番だとわかり ました。

子どもたちがなぜ英語 を学ぶ必要があるのか理 解する機会がまだ十分ではないように感じていま す。旅行の話をする時などは、自分の経験を子ど もたちにどうすれば、面白く伝えられるかを考え ます。一番良い方法は彼らが実際にわたしの旅行 に参加することだと思います。2011年にクリ スマスでバージニアへ帰った時には、中学2年生 全員が書いたクリスマスカードを持って帰りまし た。カードには、自己紹介や与論島のことについ て書いてもらいました。子どもたちは一生懸命作 成して、とてもきれいなカードを仕上げることが できました。バージニアでは友だちや家族全員に カードを渡して、2年生全員への返事も書いても らいました。返事が戻ってくることを期待してい なかった2年生はとてもびっくりしていました。 中にはアメリカからプレゼントをもらった子ども もいました。この経験でとても感動したわたしは、 2012年も継続することにしました。2012年 も2年生は自己紹介や日本の文化について書きま した。また、アメリカの文化についていくつかの 質問文も作りました。子どもたちは自分たちの生 活を紹介する度に、異なる国の人々の生活などを 少し学んだりすることができます。

JETプログラムというのは、ただ自分の経験や 成長の一部ということだけではなく、英語を通し てどのように子どもたちに文化的な影響を与えて いるのか分かりました。異年齢の人々や異文化の 中からどのくらい学ぶことができるかということ が面白いところです。素晴らしい子どもや職場の 仲間に恵まれて、ALTとしてのわたしの仕事は とても魅力のあるものだと感じています。

※与論町立与論中学校・竹原永剛教諭、平原充崇教諭による日本語訳

アメリカ合衆国バージニア州・ロアノーク市出身。趣味 はマリンスポーツ、ダンス、音楽。JETプログラムに参



加する前は、アメリカでモダ ンダンスを教えていた。JET に参加し、今年が4年目。2 年間は鹿児島県志布志市で 2011年から鹿児島県与論町 の幼稚園から高校まで計9校 でALTとして英語を教えて いる。地域の文化を学ぶため に三線、エイサー、太鼓など の活動に参加している。

Mary Margaret Gilliam

Dream Abroad

Mary Margaret Gilliam



Walking into my first class in September 2009 was an absolute nightmare. I was terrified of children but I was ready to accept any challenge, so I faced my fears. The only teaching experience I had was in teaching dance for eight years. Dance and English are quite different, as you may know. When I first saw the tiny little smiles of Yamashige Elementary School's 6th graders, I knew in an instant that I could face anything. The only English words written on the board were "I can..." Having no idea how the textbook worked or if a textbook actually existed, I resorted to the thing I knew best, dance. Throughout the whole class, I had the students use gestures and movement to explain what they could and could not do. From that point on, I have used movement in the majority of my classes. I also learned Japanese.

My whole JET teaching experience since then has continuously grown. After living on the mainland for two years, I transferred to the southernmost island in Kagoshima called Yoron. I had just finished my Teaching English as a Foreign Language (TEFL) certification the previous May and Yoron was the perfect place to apply what I had learned. I noticed that the children were great at English but they needed more communication, thus, I started to thinking of new ways for them to apply their English.

At Yoron Junior High school, with the help of my wonderful Japanese Teachers of English (JTE) I implemented a diary exchange with all of the third graders. Every weekend, each student writes to me and they ask me a question. (It took some effort but all students write to me now.) I have learned so much about Japanese culture and about the students' lives in general. I make notes on what the students like and dislike along with what clubs they participate in. One day, I was looking at the AJET website for communication games, I ran across an idea for a communication card system. I thought "this would be a great way to talk to the students about what they are writing to me." So, my JTE's and I started the Communication Cards. I talk to students outside of class in the hallways or even around the town. If they ask me questions and answer my questions they get a card. The class with the highest number of cards gets a present from the US. The students love getting the cards and I am continuously bombarded with "HELLO MARY MARGARET!" in the hallways. Because of the diary exchange, we always have something to talk about.

At the three elementary schools, our classes started out great! The students were so excited to communicate in class. After talking to one of the principals, I realized they wanted

more cultural exchange as well. So I thought, "I wonder if I can get the students to talk to people in the US and ask them questions?" Following many internet and legal questions, I started integrating video chat using Skype into my 5th and 6th grade lessons. When the students finish a lesson, I put them into pairs and they come up with a question using the grammar they had learned: "What fruits do you like?" "Do you like Lady Gaga?" "Can you swim 20 miles?" "Do you want money?" Then, on video chat, they introduce themselves to the person in the US and they ask their question(s). I took a survey recently on what kind of English classes students like the most, and they wrote that the video chat classes were their favorite.

I still feel like there are not enough opportunities for students to understand why they need to learn English. Every time I travel I try to think of fun ways to relay my experience to my students. I have found that the best way is for them to actually have a part in my travels. In 2011, when I went back to Virginia for Christmas, I had all of the JHS second graders write Christmas cards. On the cards they wrote about themselves and about Yoron. They worked very hard and made the cards beautiful. In Virginia, I gave all of my friends and family cards and had them write back to the 2nd graders. Not expecting any responses, Yoron JHS 2nd graders were shocked to all receive cards and some, even presents from the United States. I was so moved by this experience that this past year I continued the tradition by doing a culture card exchange with people in the US. Second graders this year wrote about themselves, Japanese culture, and then asked a couple questions about culture in the United States. Every time the students are able to explain about their lives and learn a bit about one other person's life in a different country.

Since I came to Japan, I realized that being on the JET Programme is not only about my experiences and my growth, it is about how much I can influence my students and help them grow culturally through English. It amazes me how much can be learned from people of any age and of any culture. My job as an Assistant Language Teacher (ALT) is fantastic because of my amazing students and my wonderful co-workers.

英語